

高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部情報セキュリティ政策会議
重要インフラ専門委員会
第16回会合議事要旨

1 日時 平成20年4月3日(木) 15:00~17:00

2 場所 内閣府本府講堂

3 出席者

[委員]

浅野 正一郎 委員長 (国立情報学研究所 教授)
赤石 良治 委員 (東日本旅客鉄道(株))
稲垣 隆一 委員 (弁護士)
岩田 隆 委員 ((社)日本ガス協会)
大塚 順三 委員 (日本放送協会)
大林 厚臣 委員 (慶応義塾大学教授)
雄川 一彦 委員 (日本電信電話(株))
小幡 篤 委員 (三井住友海上火災保険(株))
金澤 亨 委員 (野村證券(株))
九萬原 敏巳 委員 (電気事業連合会)
黒沢 昌幸 委員 ((株)日本航空インターナショナル)
郡山 信 委員 ((財)金融情報システムセンター)
小山 正嘉 委員 (三菱東京UFJ銀行)
田口 靖 委員 ((社)日本水道協会)
中尾 康二 委員 (KDDI(株))
永瀬 裕伸 委員 (日本通運株式会社)
早貸 淳子 委員 (有限責任中間法人JPCERTコーディネーションセンター)
広瀬 雅行 委員 ((株)東京証券取引所)
松田 栄之 委員 (新日本監査法人)
森山 拓哉 委員 (住友生命保険相互会社)
矢野 一博 委員 (日本医師会総合政策研究機構)
渡辺 研司 委員 (長岡技術科学大学准教授)
渡邊 正美 委員 (東京地下鉄(株))

[政府]

内閣官房情報セキュリティセンター副センター長

内閣官房情報セキュリティ補佐官
内閣官房情報セキュリティセンター内閣参事官
内閣府(防災担当)政策統括官(防災担当)付地震・火山対策担当参事官(代理)
警 察 庁 警備局警備企画課長
金 融 庁 総務企画局参事官(代理)
総 務 省 情報通信政策局情報セキュリティ対策室長
総 務 省 自治行政局地域情報政策室長(代理)
厚生労働省 政策統括官付社会保障担当参事官(代理)
厚生労働省 医政局 研究開発振興課 医療機器・情報室長(代理)
厚生労働省 健康局水道課長(代理)
経済産業省 原子力安全・保安院 電力安全課長
経済産業省 原子力安全・保安院 ガス安全課長(代理)
経済産業省 商務情報政策局情報セキュリティ政策室長
国土交通省 総合政策局情報管理部情報安全・調査課情報危機管理室長
国土交通省 鉄道局危機管理室長(代理)
防 衛 省 運用企画局情報通信・研究課情報保証室長

4 議事内容

- (1) 内閣官房情報セキュリティセンター 副センター長挨拶
- (2) 浅野委員長挨拶

- (3) 論点説明に関して
 - 事務局より説明

- (4) 委員意見開陳
 - CEPTOAR、「重要インフラ連絡協議会(CEPTOAR-Council)(仮称)」「以下、(CEPTOAR-Council)という。」での情報共有について、どのような情報共有を目指すのか、CEPTOAR、CEPTOAR-Councilの機能についての目標レベルはどの位かを具体的に示し、関係者間で共有した方が良いのではないかと。
 - 将来的にCEPTOAR-Councilとしての意見が出るのであれば、専門委員会と対比できるようなものが出ることを望ましいと思う。
 - 今回の相互依存性解析の結果に関する留意点として、あくまでも解析は関係者が合意した方法論で自己申告に基づき行ったものであり、第三者が客観的に判断・評価したものではない。

また、周辺システムを対象にするかという点について、機能やオペレーションの観点から判断すると、今回の解析結果から重要システムになり得るものが抜け落ちているのではないかという懸念や、定常状態における各分野間での関係を非ITも含んだ上で解明するための解析を行う必要があるのではないかという思いもある。

いずれにせよ、国民の生活、社会経済、企業の視点を常に念頭に置きながら整理していくことが必要ではないか。

- 相互依存性解析をどこまで、誰がやるかという点について、CEPTOARも大きな役割を担うことが期待されるものの、行政がやっていかねばならない部分は今後も残るのではないか。

方法論については学术界で検討してもらおうというやり方もあるので、それぞれの役割を整理した上で、次のステップを考えていく必要があるのではないか。

また、CEPTOARの活動において、相互依存性解析に基づく分析結果を踏まえ、何らかの形で反映していく必要があるのではないか。

- 瞬間的な障害と復旧までに数日を要する障害とでは、機能回復に要する時間は大きく違ってくるのが考えられるし、機能回復のフェーズにおける相互依存性という課題も考えられるので、機能回復という部分をどう捉えるかという点について十分検討する必要があるのではないか。

- 演習においては、共有した情報をそれぞれの主体あるいは共有者間でどのように活かしていくかという点も課題ではないかと思う。情報共有の仕組みを実効性のあるものにするためにも、取り組みを深化させていくことが大事だと思うので、そういった点も演習設計の中で検討していただきたい。

また、演習未参加の関係者も含め演習の成果を共有するためには、情報の取り扱いに関する議論を深めていくことが重要である。どんな情報をどの程度の時間で提供できるのか、情報の機密性保持の観点でどう対応するのかといったような点を整理していくことが必要になるのではないか。

- 今年度の演習のシナリオを検討するに当たっては、相互依存性解析の結果が取り込まれるような形、こういう事象の発生により、この分野に波及するという部分がもう少し明確になるよう工夫した方が良いのではないか。

(5) 今後の予定

- 浅野委員長より、情報セキュリティ政策会議への諮り方について説明があった。